

平成 22 年 8 月 6 日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問合せ先 取締役経営管理本部長 相川 法男
(TEL. 078-302-7075)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 12 月期第 3 四半期連結会計期間において、下記の特別損失を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

また、最近の業績動向等を踏まえ、平成 22 年 12 月期の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を下記の通り修正しますのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

①特別損失の内容

減損損失 18 百万円

独立行政法人国立がん研究センター（以下、「国立がん研究センター」という）との共同研究の進捗に伴い、最新鋭の分析機器（細胞イメージアナライザー）を導入し、創薬研究の更なる進展を図ります。これに伴い、当該分析機器の導入時期である平成 22 年 12 月期第 3 四半期において減損損失を特別損失として計上いたします。

②特別損失の計上の理由

平成 22 年 4 月 2 日に公表いたしました「「保健医療分野における基礎研究推進事業」新規研究プロジェクト採択等に関するお知らせ」の通り、国立がん研究センターとの共同研究が、独立行政法人医薬基盤研究所（以下、「基盤研」という）の運営する「保健医療分野における基礎研究推進事業」の平成 22 年度新規研究プロジェクトとして採択されました。これに伴い独立行政法人科学技術振興機構（JST）の運営する「研究成果最適展開事業「A-STEP」」に係る委託研究開発契約を平成 21 年度で終了し、その後、当社は本件採択に係る基盤研との委託研究契約の締結を行いました。このようなことから、当初、「A-STEP」を活用し、上記分析機器の無償借受による導入を予定していましたが、基盤研の研究支援制度は、支援制度上の取り決めにより分析機器の調達に適用されないため、設備投資により導入することとなりました。その結果、当該分析機器については、「固定資産の減損に係る会計基準」に従い、平成 22 年 12 月期第 3 四半期におきまして、減損損失として特別損失に計上されます。

2. 平成 22 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	385	△194	△165	△173	△2,952.92 円
今回修正予想 (B)	323	△181	△150	△157	△2,687.36 円
増減額 (B - A)	△62	12	14	15	
増減率 (%)	△16.1%	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 12 月期第 2 四半期)	318	△162	△158	△162	△3,049.26 円

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	347	△198	△170	△177	△3,025.28 円
今回修正予想 (B)	297	△176	△145	△152	△2,591.83 円
増減額 (B - A)	△49	21	24	25	
増減率 (%)	△14.3%	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 12 月期第 2 四半期)	293	△161	△157	△161	△3,032.02 円

3. 業績修正の理由（平成 22 年 12 月期第 2 四半期累計期間）

平成 22 年 12 月期第 2 四半期累計期間におきましては、創薬事業については、共同研究の進捗に伴う収入（売上）が、概ね計画通りとなりました。他方、創薬支援事業については、主要 3 製品・サービス群（キナーゼタンパク質、アッセイ開発及びプロファイリング・サービス）は、米国及び欧州での売上が主に円高・ユーロ安、製薬企業の再編に伴う各社の研究プロジェクト数の絞り込み及び新たな技術導入によるキナーゼタンパク質使用量の減少の影響により計画を下回る見込みですが、国内での売上が主にプロファイリング・サービスが好調、アッセイ開発が堅調に推移し計画を上回ることにより、国内外全体では概ね計画通りとなる見込みです（前回公表予想に対する達成率 93%）。しかしながら、前回公表予想において見込んでおりました「リード探索サービス」に係る追加受注を得意先製薬企業から獲得できなかったことにより、当該サービスに係る売上高が前回公表予想を 40 百万円下回る見込みとなりました。製薬業界においては、新薬の開発競争が国際的に激化していることを背景に、大手製薬企業による新薬候補パイプラインの拡充を目的とした国境を越えた M&A が活発化しております。こうした中、当社の創薬支援事業における「リード探索サービス」のビジネスパートナーである OSI Pharmaceuticals, Inc.（米国、以下「OSI 社」という）は、世界有数の抗がん治療剤 Tarceva®の開発の実績に裏打ちされた研究能力等が評価され、買収されることになりました。この買収の影響により、当該サービスの見込顧客であった得意先製薬企業は OSI 社と当社が共同で行う当該サービスへの発注を控え、また、今後、当該サービスを提供することが困難となった結果、当社は第 2 四半期中に見込んでおりました当該サービスに係る売上が計上できなくなりました。

これらを主因として、連結ベースの第 2 四半期累計期間の売上高は、前回公表予想よりも 62 百万円減少し、323 百万円となる見込みです。これに伴い売上総利益は 26 百万円減少しますが、業務の効率化や諸経費の節減等により販管費を圧縮することで、営業損失、経常損失及び当期純損失は前回公表予想よりもそれぞれ改善し、181 百万円、150 百万円、157 百万円となる見込みです。

なお、個別業績予想の修正につきましても、連結業績予想の修正と同様の理由によるものです。

4. 平成22年12月期通期業績予想数値の修正（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	840	△321	△294	△304	△5,182.64円
今回修正予想 (B)	740	△344	△315	△344	△5,868.78円
増減額 (B-A)	△100	△22	△21	△40	
増減率 (%)	△11.9%	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成21年12月期通期)	687	△344	△349	△315	△5,873.72円

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	761	△327	△300	△309	△5,279.31円
今回修正予想 (B)	669	△337	△308	△337	△5,744.77円
増減額 (B-A)	△91	△10	△8	△27	
増減率 (%)	△12.1%	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成21年12月期通期)	633	△350	△355	△321	△5,983.55円

5. 業績予想修正の理由（平成22年12月期通期）

平成22年12月期通期の連結業績予想につきましては、創薬事業においては、前回公表予想通り、早期導出プログラム及び共同研究の進捗に伴う収入による120百万円を見込んでおります。一方、創薬支援事業においては、前述の通り、平成22年12月期第2四半期累計期間において、主に「リード探索サービス」の協業先であるOSI社が買収されたことにより当該サービスに係る受注を得意先製薬企業から獲得できなかったことに伴い、前回公表予想において見込んでおりました当該サービスに係る第2四半期の40百万円、第3四半期の20百万円の売上が減少することが見込まれます。また、主要3製品・サービス群（キナーゼタンパク質、アッセイ開発及びプロファイリング・サービス）については、今後も国内での売上、特に大手製薬企業向けのプロファイリング・サービスが好調に推移することが予想されますが、第3四半期以降も第2四半期累計期間と同様に、欧米での製薬企業再編、円高・ユーロ安及び円高・ドル安等の影響を受けることが予想されるため、これらを勘案しまして、創薬支援事業の通期売上高は前回公表予想を100百万円下回る620百万円を見込んでおります。損益面については、第2四半期累計期間に続き、諸経費の節減に最大限努め販管費を圧縮いたしますが、前述の売上高の減少に伴い、営業利益は22百万円、経常利益は21百万円、それぞれ前回公表予想に比較して損益が悪化する見込みです。当期純利益については、前述の通り、創薬研究の促進を目的とした最新鋭の分析機器導入に伴い、創薬事業に係る固定資産の減損損失を特別損失として計上することもあり、前回公表予想に比較して40百万円、赤字幅が拡大する見込みです。

なお、個別業績予想の修正につきましても、連結業績予想の修正と同様の理由によるものです。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

以上